

ふりがな 氏名	とくたけ まさや 徳武 雅也	都道府県	茨城県	
所属/肩書	筑波大学社会・国際学群国際総合学類			
私のESD活動	自然環境と人と生活のつながりを探るために、生物多様性保全や自転車交通の事業に取り組んでいます			
ESD活動を表すキーワード	生物多様性	持続可能な都市環境	国土と地域文化	

活動の概要（特に、取り組みの独創性、革新性、成果について説明してください）

2010年、名古屋市教育委員会の環境学習事業で愛知の自然環境について学び、同年愛知県で開催された生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)の国際子ども環境会議に参加した。世界中の子どもたちの代表として本会議の閣僚級会合で演説し、一部が世界の生物多様性保全に関する新目標「愛知ターゲット」に記載される。

2011年～2013年の高校在学中、名古屋市教育委員会の環境学習事業の運営に学生スタッフとして参与。またCOP10に携わっていた高校生有志で愛知県環境部・名古屋市環境局・環境省と連携し、愛知・名古屋の生物多様性保全についての普及啓発、保全活動を高校生の視点から行政と協力して行った。具体的には、外来種駆除と調査を目的とした、ため池の池干し事業をイベント化して外来魚を美味しく頂いたり、国連生物多様性の10年の記念事業でフォーラムを開催し、生物多様性保全の世代間協力を模索したりした。有志の高校生が生物多様性保全・普及啓発活動に取り組む事例はこれまでにほとんど例がなく、取り組みは行政・教育関係者の注目を集め、県内の高校でのESD活動の活性化や2014年のESDユネスコ世界会議に向けた架け橋となった。

大学に進学した2014年から現在も、生物多様性わかものネットワーク(環境省 国連生物多様性の10年日本委員会のユース枠の団体)に所属し、全国の若者の生物多様性保全を推進する施策に携わっている。また、大学の実践研究授業でつくば市役所と連携し、自転車利用推進事業による地域ブランディング・自転車交通の施策に学生のチームで取り組んでいる。

私の強みは、ESD活動が自身の学生生活の成長とともにあり、ESDの10年の被験者としての経験を物語るができる点である。

・環境情報誌 Risa 掲載記事 http://www.media-brain.co.jp/images/book/risa2013_11.pdf

ESD活動をさらに深めるために、今後どのような活動を展開していこうと考えていますか？

私は今後、持続可能な都市環境について学んでいきたいと考えている。具体的なテーマは、既存の都市基盤の修正・活用やまちのブランディングによって、自然環境と人と生活のつながりを創出することである。そのためには、ESDの幅広い分野のグッドプラクティスに触れておく必要がある。また、昨年度からはこれまでと違うテーマで、日本国土と地域についての調査活動も始めた。

人々の生活と地域に根付く文化、そして日本の国土を肌で感覚で刻み込むため、自転車で日本中を巡っており、昨年度から8000km自分の脚で走った。日本における伝統的な暮らし、そして現在への生活基盤・景観の変容には物語がある。私はそうした物語に自然と人と生活のつながり、そして美しさ、「未来に残したいもの」があると感じている。これらをヒントに世界で共有されるESDに、日本的な感性を上手く取り入れたグッドプラクティスを発信していきたいと考えている。